

早稲田の杜

Vol. 35

2017・春

～ 2016年度の講座より
映画で学ぶ憲法

志田 陽子先生

529年
タマスキオス
シンプリキオス
ヌ

～ 2016年度の講座より

新プラトン主義入門

堀江 聡先生

目次

02

「知の開拓」

講師インタビュー 菅野 俊輔先生
受講生インタビュー 山藤 明さん

04

ウセモリギャラリー

05

単位・修了・紺碧賞のご案内
修了生・紺碧賞受賞者のメッセージ

06

レジリエンスセミナー

～逆境に強いパーソナリティ～

08

早稲田の杜を歩く

インフォメーション



EXT

早稲田大学
エクステンションセンター

歴史、文学、暮らしづくり……江戸のすべてを愉しんで

「私は他のエクステンションセンターの先生と違って、大学教授ではありません。出版社に40年間勤め、歴史好きが高じて今に至ります」と、楽しみに語る菅野先生。歴史の学術書籍も担当したそうで、前職中に生涯取り組めるものとして、とある歴史学会に出席し、名だたる先生方から多くの刺激を受けた際に、自分も学ぶ側から発信する側になりたいと意識が変わったといいます。

民間企業から講師へと転身された菅野先生は「江戸文化研究家」の肩書も持ち、エクステンションセンターでは、自分だからこそこできる講義の内容を大切にされています。

「たとえば江戸時代そのものを学ぼうとしたとき、大学なら『歴史』『文学』などそれぞれ専攻が違うので複数の講義を取らなければなりません。教授によって物事の解釈も違うでしょう。でも本来、時代というものは一連の流れで把握したほうがおもしろいというのが私の考えです。歴史も文学も経済も、生活スタイルさえ含めた、江戸時代を形成するすべての事柄をまとめてお話ししていきたい。」

こうした菅野先生の授業の進め方は、受講生の皆さんに江戸時代を多角的なアプローチで捉えてほしいという想いが根底に

ありますが、実はエクステンションセンターで講義する難しさもあるからだそう。「大学とは違うので、受講される皆さんは全員、目的が違います。つまり趣味の延長線上の方もいれば、もっと専門的に学びたい方もいらっしゃるわけです。できれば全員のニーズに応えたいので、幅広い江戸時代から少しずつテーマを切り取って話しているのです」と真剣なまなざし。その授業スタイルは教壇に立つ「講義をする」よりも、席に近寄って質問を投げかけ、受講生一人ひとりと近い距離感をつくることを心掛けています。「私に言わせると、江

戸は失われたワンダーランド」。京都や奈良と違って東京の風景は変わってしまったけど、私の授業から江戸の粋を感じてほしい。自分なりに生活に取り込んで、愉しんでいただきたいですね」。

受講生にはぜひ1回だけでなく、続けて講座を受講することで江戸時代をより深く知ってほしいという菅野先生。「皆さんから何を質問されても応えられるようにすることを自らに課しています。そのために私自身も学び続けているのです。私にとっても、このエクステンションセンターで講義することが、生き甲斐になっているのですから」。

教える人

菅野 俊輔 先生



(かんのしゅんすけ)
1948年東京生まれ。カルチャーセンターなどの古文書や江戸学の講師のほか、講演、テレビ出演と監修、著述など幅広く活動中。著者「江戸っ子が惚れた忠臣蔵」(小学館)、「古地図と名所図会を味わう 江戸の落語」(青春新書)、「書いておぼえる江戸のくずし字いろは入門」(柏書房)等。

担当講座

「江戸幕府の成立を考える」
「くずし字で学ぶ」
「徳川家康 vs 真田幸村」
「江戸のくずし字『武江年表』を読む」
「江戸のくずし字『泰平年表』を読む」
「江戸の古地図〈切絵図〉を読み解く」
「家康を将軍にした男たち」
「江戸のくずし字〈版本〉を読む」

ちのかいたく
開拓

菅野先生の 学びの提言

著書紹介

監修・執筆『別冊宝島 江戸太古地図』(宝島社)
現在図との見開きで、東京歩きに便利。

『江戸っ子が惚れた忠臣蔵 赤穂義士の実像と虚像に迫る』(小学館)
事件後の芝居「忠臣蔵」上演に注目。

おすすめ図書～私の本棚から～

『居酒屋の誕生』飯野亮一(ちくま学芸文庫)
呑めない私の座右の書。



知の



山藤 明さん

学ぶ人

2016年度 受講講座

「くずし字で学ぶ」
「日本城郭史概論VII」
「江戸のくずし字『武江年表』を読む」
「深読み!江戸時代」
「江戸のくずし字『泰平年表』を読む」
「武士のお仕事」

山藤さんの 学びの履歴書

受講科目

- 2015年度** ●史料『江戸見物四日めぐり』に学ぶ
●江戸の出版物で読む〈安政の大地震〉 ●徳川家康 城と合戦
●江戸の盛り場〈芝居と遊里の風景〉
●江戸のセレブ女性が行く! 夢見る「東路」の旅
●江戸のくずし字『武江年表』を読む ●深読み! 江戸時代
2014年度 ●江戸のくずし字〈古文書〉を愉しむ
●池波正太郎の世界 ●深読み! 江戸時代〈巨大都市 江戸の商人〉
●江戸のくずし字〈版本〉を愉しむ
●江戸のくずし字〈黄門伝説〉を読む ●19世紀江戸の旅事情
●江戸のくずし字〈出版物〉を読む
●百万都市江戸に暮らす武士たちの「エコ」生活

定年後、すでに10年以上エクステンションセンターに通っているという山藤さん。

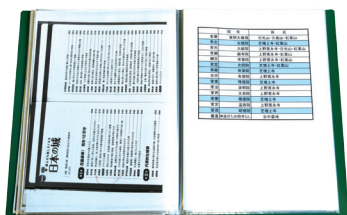
同じ年月ほど菅野先生の講座も受講されており、「私は先生のサポーターみたいなものです(笑)」と、その笑顔は充実しています。「もともと歴史と地理が好きで、定年後はいろいろなところへ旅行しました。熊野古道や木曽路……高野山では宿坊に泊まったことも。観光名所には様々な歴史上の考察がありますよね。また、浮世絵のセリフやト書きなど、そういうものを読めるようになればもっと深く歴史を楽しむことができる」と考えて菅野先生の講座を受講し

始めました。

古文書や、江戸の暮らしぶりを「エコ生活」と捉えた授業など、菅野先生の視点に知的好奇心が刺激されるという山藤さん。「先生の授業は継続して受講することで江戸時代の流れがわかる構成になっています。そして、とてもフレンドリーで、資料を配って解説して終わるという一方通行なものではなく、受講生と一緒に授業を作り上げていくスタイル。先生からの質問には必ず応えたいので予習もするようになるし、学び続ける意欲が湧いてくるのです」。調べたいことがあれば国会図書館まで

足を運び、資料はコピーして自分専用にスクラップ。古き良き日本の姿が描かれる数々の時代小説も愛読し、その情熱と向上心には驚かされるばかりですが、今は自分の知識が増えていくことに喜びを感じているそう。「調べていくと、都内近郊でも思いがけないところに江戸の名残があるものです。最近では、江戸時代に幕府の直轄領だった八王子城跡に行ってみました。比較的、遺構は良好な形で残されているので興味深かったですね」。同じように、数寄屋橋や自身の生まれ育った浅草などをめぐって江戸情緒を楽しんでいるという山藤さん。と

ところで、今後の目標は?「江戸の通貨について知りたいですね。江戸時代は260年続きますが、お金の価値観が違うようなので、ちょっと調べてみようかな。江戸の雑学、たとえば当時の職人さんの年収なども意外と調べられるものなのですよ(笑)」。



▲わからないことは諦めず、すぐに調べるのが山藤さん流。集めた資料はいつでも見返せるよう丁寧にスクラップ。

講座が自らの知識の幅を広げるきっかけに

受講生の作品をご紹介

ワセモリ ギヤラリー

今回は、早稲田校「水彩ステップアップ講座・自由画講座」(早稲田校) 由画講座(出口雄大先生)、「風景の詩講座」(南口清二先生)、「ステップアップ写真撮影術」(塩澤秀樹先生)、中野校「己書(おのれしよ)を描く」(杉浦正先生・馬淵将樹先生)講座を受講された方々の作品を取り上げました。

「ステップアップ写真撮影術」(早稲田校)

「うしろ大丈夫？」
児玉博之さん(2015年入会)



「祈祷」
横山 英樹さん(2015年入会)



「水彩ステップアップ講座・自由画講座」(早稲田校)



「秋の日の思い出」
岡本 多美子さん(2005年入会)

「風景の詩講座」(早稲田校)



「溪流」

西畑 正裕さん(2004年入会)



「昼下がり」
田中勝さん(2011年入会)



「競り泳ぎ」
鈴木 一枝さん(2016年入会)



「善福寺池・初夏」
飯田 榮一さん
(2008年入会)



「深大寺関伽堂」
岡田 琢さん(2002年入会)

「己書(おのれしよ)を描く」(中野校)



町田 和子さん(2006年入会)



内田 綾子さん(2015年入会)

単位

修了

紺碧賞

単位

オープンカレッジの講座には独自の単位が設定されています。(90分授業×5回＝7.5時間で1単位)講座では、出席カードにより出席を確認します。全授業回数の2/3以上の出席をもって所定の単位取得となります。(ビジターの方を除く。)

目指せ！修了生

76単位を取得されるとオープンカレッジ修了となり、次年度のオープンカレッジ開講式にてオープンカレッジ「修了証書」を授与します。修了後は終身会員となり、以後の会員更新料が不要となる他、早稲田大学の「推薦校友」となる道が開かれます。また、修了生の親睦組織「稻修会」にもご入会いただけます。

推薦校友とは

早稲田大学の卒業生・教職員・推薦校友・早稲田大学名誉博士は「校友」と呼ばれます。推薦校友は、人格、識見その他早稲田大学校友として推薦するに足る人物で、早稲田大学の同窓会組織「早稲田大学校友会」に承認された方を指します。「早稲田大学校友会」の正会員となります。

憧れの紺碧賞

さらに取得単位が150単位となりますと「オープンカレッジ紺碧賞」を授与します。紺碧賞はオープンカレッジの最高峰です！



修了メッセージ

「心身共に元気になりました」

會田 直子さん(2007年入会)



2007年に早稲田大学に入學した長女が「社会人向けの講座もあるらしいよ。」と教えてくれたのがエクステンションセンターでした。早速、茶の湯と作法の数か月の講座を受講し、「懐紙の大きさは身分によってサイズが異なり、現在茶席で使用するものよりもずっと大きい。」と知った事は驚きでした。「いくつになっても知らなかったことがわかって楽しい。」その後はドイツ語会話、歌舞伎、徒然草、仏像、仏陀の生涯など様々なジャンルを学ばせて頂きました。特に5年間続けた、ドイツ語講座の同級生の皆様と今でも仲良くさせて頂いている事は何よりの喜びです。

また、卓球部の顧問教授や現役部員さん方が教えて下さる卓球や、インド哲学やサンスクリット語にも通じておられる先生によるヨーガ等、体を動かす講義に関するも、他の文化教室では見られない秀逸な内容です。仕事と家事に追われる毎日の為、単位修得に10年間かかりましたが、次はどの様な講義を受けようかなとまた楽しみます。

紺碧賞メッセージ

「昔から興味の近現代日本史を学び直して」

小池 裕武さん(2007年入会)

エクステンションセンターに本格的に入会したのは2007年ゆえ、やっと10年経ちました。発端は「かなり知っている事をもっと深く知りたい」と云う単純かつ自然な欲求でした。主に選択したのは「近現代日本史・国文学史」でした。春秋は週2日(3科目)で早稲田校、夏冬は週2日(2科目)臨時講座で八丁堀校に通っています(八丁堀では各種教養講座も多い)。

約15人余の講師から学びましたが、圧巻は早稲田校のある近現代日本史のS先生です。10年前の開講一番「私の仕事は学生を眠らせない事です。」この先生の講義は眠れません。名演説で聞くに値する脱線も多く、生徒の立場に立った立派な資料を毎回整えるのです。このような先生には講義後、生徒から自然発生的に拍手が沸き起こるのです。

それに対し講義実施要綱(シラバス)どころか何の資料も提出もせず、講義はお経のような先生も居られます。私は本学OBですが、昔から教授とはその名の通り生徒に「教える授ける」業務を為す事で俸禄を得る職種と思っています。幾ら研究熱心でも教える事が第一の職務です。話術をもっと勉強して欲しい先生も少なからず居られる事も一面事実であると思います。

紺碧賞メッセージ

「学びは一生終わらない」

小辰 洋子さん(1995年入会)

40代後半に溪流の釣りを始めました。川に入った時、「この川はどうしてできたのだろうか？たぐさんある堰堤はどんな働きをしているのだろうか？」という疑問が湧いてきました。そんな時、オープンカレッジの「河川(自然地理)」についての講座に出会いました。

大学では文系を専攻し、ビジネスの世界で仕事を続けてきたので、理系の学問とは縁がありませんでした。高校生時代も「地学」は取りませんでした。ところが、オープンカレッジの講座を受け始めて、自然地理に対する自分の関心がとても高いことを認識し、先生の授業を聴き、実際に河川を見て歩く巡検に参加して、大きな満足を得ました。

その後も自然地理関連の講座を受け続け、退職後は某自然科学系の博物館でボランティア活動することになりました。自身の知識の乏しさを痛感し、興味の趣くまに、オープンカレッジの自然科学などの講座を受けています。

少し知ると、さらにその先を知りたくなり、学びは尽きることなく、日々の私の生活を豊かにしてくれています。

レジリエンスセミナー 「逆境に強いパーソナリティ」

当センターは、不確実で変化の激しい現代における社会の問題を取り上げ、解決の糸口を探る機会を提供したいという思いから、働く世代や子育て世代の皆様を対象とした連続セミナーを企画しました。第1回は2016年11月19日(土)、中野校において開催。悪天候にも関わらず、約60名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様からは講演者に対して熱心なご質問が投げかけられ、白熱したセミナーとなりました。

Program

14:00 ご挨拶
太田正孝 エクステンション
センター所長

14:15 セミナー①
「レジリエンスのある
知性と社会」

講演者: 萱野稔人氏
(津田塾大学教授)

15:15 休憩

15:30 セミナー②
「逆境を乗り越える
勝負脳」

講演者: 林成之氏
(脳神経外科医、
日本大学名誉教授)

コーディネーター: 林勝彦氏
(サイエンス映像学会会長、
元NHKプロデューサー)

セミナー①「レジリエンスのある知性と社会」

まず「レジリエンスのある知性」という点で、先般おこなわれたアメリカ大統領選挙の例を挙げます。アメリカはもちろん日本も含めての下馬評は圧倒的にドナルド・トランプ氏が不利で、特にトランプ氏を支持するのは低所得者かつグローバル化から取り残された白人労働者のみだと報道されていました。ですが、投票直前におこなわれた世論調査では高所得者ほどトランプ氏を支持していることが発覚。また、討論会で

暴露された女性スキャンダルはトランプ氏に致命的なダメージを与えたと思われていましたが、フタを開けて見れば白人女性も10ポイント以上の差をつけてトランプ氏を支持していたことがわかったのです。

なぜ今回、各主要メディアはここまで見誤った報道をしてしまったのでしょうか。

それは、選挙期間中に物議を醸していたトランプ氏の様々な過激発言を格好の題材として取り上げてしまい、かつアメリカ全土に大した確証もないままヒラリー・クリントン氏勝利の風潮を植え付けてしまっ

たことにあります。しかしよく考えてみれば、トランプ氏はもとより民主党支持者であり、非常にリベラルな考え方の人物だと思ふのです。大統領選出後、テレビインタビューで同性婚を容認すると発言したのは記憶に新しく、保守派の多い共和党選出の大統領候補者の発言としてはものすごいこと。ひょっとしたら選挙戦中のトランプ氏の数々のパフォーマンスは、選挙を勝つための策だったのかもしれませんが。過剰なトランプバッシングを続けたメディアにまんまと踊らされてしまった人たちは、この結果に落胆を隠しきれないことでしょう。

人間は、言われたことを真に受けて間違ったイメージをつくり、そのイメージに合わないものを切り捨てて物事を判断してしまう傾向にあります。しかし、物事をきちんと分析し、次の一手に備えておくことで思いもよらぬ状況にも柔軟に対応することができます。自分の価値観を冷静に見極める判断能力を養ってみてください。

そして「レジリエンスのある社会」についてですが、これはまさに日本がお手本であるといえます。日本には創業200年以上

を誇る企業が3000社以上もあり、世界有数の老舗企業大国です。これだけ自然災害が多い島国でこの結果は、日本社会自体がレジリエンスを持っていると言えるのではないのでしょうか。さらに日本は、世界に通用するオリジナリティのある製品をどれだけ抱えているかを表す「経済復雑性指標」

アメリカ国民のみならず日本でも注目されたアメリカ大統領選の話題に参加者の皆さんは興味津々。配布された資料に熱心に目を通して聴講されました。





■ 菅野 稔人氏

津田塾大学教授。専門は政治哲学、社会学理論。コメンテーター、キャスターとして新聞、テレビ番組等で活躍。『成長なき時代のナショナリズム』(2015年)、『暴力と富と資本主義—なぜ国家はグローバル化が進んでも消滅しないのか』(2016年)、『100分de名著 カント『永遠平和のために』』(2016年)等 著作多数。



■ 林 成之氏

脳神経外科医、日本大学名誉教授。富山県出身。日本大学医学部、日本大学大学院医学研究科博士課程修了後、マイアミ大学医学部脳神経外科、同大学救命救急センターに留学。帰国後、日本大学医学部付属板橋病院救命救急センター部長に就任。救急患者の治療に取り組み、脳低温療法などをはじめとする数々の画期的な治療法を開発。日本大学医学部教授、マイアミ大学脳神経外科生涯臨床教授、日本大学総合科学研究科教授を経て、2014年に日本大学名誉教授の称号授与。主な著書に『脳低温療法・重症脳障害患者の新しい集中治療法』、『脳に悪い7つの習慣』、『(勝負脳)の鍛え方』、『ビジネス(勝負脳)』などがある。



■ 林 勝彦氏

サイエンス映像学会会長、NHK元プロデューサー。東京都出身。慶應義塾大学卒業。専門は科学・医療ジャーナリズム、映像制作。NHKディレクター・プロデューサーとしてNHKスペシャル『驚異の宇宙・人体』4シリーズを含め、40年間に数百本の番組制作に携わる。早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコースで科学映像制作実習の指導した経験をもとに早稲田大学エクステンションセンターで講座を担当している。主な著書に『科学ジャーナリストの警告』(清流出版)、『これが脳低温療法だ!』(NHK出版)などがある。

でも15年連続で世界一位です。日本の経済成長は長らく停滞し、近年の少子高齢化もそれに拍車をかけていると言えますが、こうした長寿企業の存続や経済の複雑性を考えれば日本にはしっかり社会的レジリエンスが根付いているのではないでしょう



「年齢を重ねても脳は進化できる」と語る講師の林成之氏(右)。講演後の質疑応答では林勝彦氏(左)の巧みな司会・進行で、参加者の皆さんと活発な議論が行われました。

か。この強みを活かすことが、さらに日本経済の発展につながると考えています。

セミナー②「逆境を乗り越える勝負脳」

林勝彦 NHKのプロデューサー時代、「NHKスペシャル」で脳死の番組を制作したことがあって、いろいろ調べていくうちに脳低温療法を開発した林成之先生に辿り着きました。素晴らしい療法ですが、画期的過ぎて番組企画が通りづらく、8回も作り直したのです(笑)。今日はぜひ皆さん、世界で活躍する脳神経外科医から脳の神秘と鍛え方を学んでください。

林成之 脳低温療法とは、簡単に言うと脳の中を冷やして脳の障害の進行を防ぐ治療法です。何等かの衝撃で傷ついた細胞は興奮し2日間くらいかけて徐々に死んでいくのですが、冷やして興奮を抑えることで健康な細胞まで傷つけることを防げるんですね。この療法による治療の成果は上がり、今では瞳孔が開いてしまった患者さんの約4割が回復する結果になりました。このように脳とは不思議な機能で、無限

に進化していくものです。私は現在77歳ですが、脳科学をもとにオリンピック選手の指導もしています。皆さん、もう歳だからと諦めている方がいるかもしれませんが、脳は常に新たな情報に反応する機能を持っているので鍛えれば大丈夫なのです。

鍛えるにはまず脳の二つのクセ「統一・一貫性」と「自己保存」を把握しておく必要があります。人間は物事の良し悪しに関係なく「数が多いほう」に合わせようとします。それは「統一・一貫性」が脳の中ではなくからです。そして「自己保存」とは、生きていくために自分を守るための本能です。この二つを上手にコントロールしないと間違った判断をしてしまう可能性がありますが、注意しないといけません。「これはおかしいな」と感じたなら物事をじっくり考えて判断し、ときには自分を疑ってみることで。では、その脳のクセを踏まえ、オリンピックで金メダルを獲得するような超一流選手の脳の鍛え方を三つ教えるので、皆さんぜひ自分のものにしてください。一つ目は金メダルを通過点と捉えること。私たちは

小さい頃から100点が満点だと教えられていますが、そこを最終ゴールにしてしまうと次に良い結果が残せません。二つ目は「心技体の概念を変える」こと。心技体のバランスが整っているのが良い選手だと言われますが、自分のキメ技を持っていない人はいくら精神を鍛えても勝負には勝てません。三つ目は「無意識に緩む脳を克服すること」。脳は「もうダメだ、できない」と否定から入ると気持ちが緩む仕組みになっています。ですから絶対に否定語を使つてはいけません。自分が好きなことを前向きに取り組んでいるとき、脳細胞は進化します。そして自分がやろうとしたことを達成するときに、脳は一番喜びます。つまり物事を好きになること、それがすなわち才能を伸ばすスタートになるわけです。これは子供の教育にも応用できることだと思えます。子供が好んで打ち込んでいることは、どんどん繰り返しさせることで「統一・一貫性」も鍛えられます。何事にも興味を持つ子供は、やがてその才能を如何なく発揮できることでしょう。

早稲田の杜を歩く

中野校グループ制作室 編

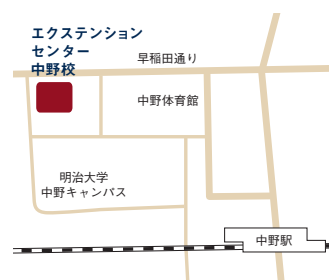
中野校には少人数で制作実習を行うための「グループ制作室」があります。この教室を利用して、草木染めや水彩スケッチ等の講座を実施しています。講座の詳細はパンフレットやホームページをご覧ください！皆様のご受講をお待ちしています！



▲▶草木染めなどが行われるので、洗い場が設置されています。



▶2016年に開校した中野校は、ビジネスや芸術など、500講座を設置しています。



受講料改定について

当センターは、1993年以来、受講料を据え置いてまいりましたが、今学期より改定させていただくこととなりました。これからも、学びやすく、時代に即した魅力的な講座を提供するために、経費節減に努めてまいります。ご理解を賜りますようお願いいたします。

インターネット申込割引の実施について(期間限定)

当センターホームページからご受講のお申し込みをいただいた場合、受講料の3%を割引く「インターネット申込割引」を2017年度冬講座までの期間限定で実施いたします。ぜひ、ご利用ください。

年間講座の廃止について

これまで主に早稲田校を中心に、春・秋学期をセットにした年間講座を設置してまいりましたが、八丁堀校・中野校を含めた三校のサービスを共通化することを目的として、一部の講座を除き、2017年度より四学期制に移行いたします。

Information

講座時間の共通化 (早稲田校における120分講座の廃止) について

これまで早稲田校では夏・冬学期を中心に120分講座を設置してまいりましたが、一部の講座を除き、2017年度より廃止いたします。これにより、早稲田校は講座時間が共通化されるため、講座選択の幅が広がります。

懇親会補助金の廃止について

これまでクラスで懇親会を行う際に、申請に基づいて補助金を支給してまいりましたが、受講生の皆様に対してサービスが公平に行き届いていない状況に鑑み、2017年度より廃止いたします。今後は、「インターネット申込割引」のように、オープンカレッジの本質であるご受講に対して、より多くの皆様がメリットを受けられるサービスを検討してまいります。

「早稲田の杜」は当センターホームページでもご覧いただけます。 <http://www.ex-waseda.jp>

早大 エクステンション

検索



EXT

早稲田大学
エクステンションセンター

■発行

早稲田大学エクステンションセンター
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

TEL:03-3208-2248 FAX:03-3205-0559 e-mail:wuext@list.waseda.jp

■制作協力

(株)エムディーエス